

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジンカナガワケンリツホケンフクシダイガク 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学									
フリガナ大学の名称	カナガワケンリツホケンフクシダイガクダイガクイン 神奈川県立保健福祉大学大学院 (Kanagawa University of Human Services Graduate School)									
大学本部の位置	神奈川県横須賀市平成町1丁目10番1									
大学の目的	21世紀に入り、少子高齢化や国際化の進展等に伴って、社会構造や人々の意識は急速に変化している。ライフサイクルはますます多様化し、保健医療福祉の分野においても、幅広い学際的視野と高度な専門知識・技術をもつ、ジェネリックであり、かつスペシフィックな人材が求められるようになってきていることから、こうした視点に基づく教育研究をととして、21世紀の神奈川の保健医療福祉を担う各分野、領域でのリーダーとなる人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	ヘルスイノベーション研究科では、極めて早いスピードで進む高齢化や少子化による人口構造及び社会システムの変化、グローバル化や個別化医療の進展等の現代社会の動向を踏まえ、保健医療に関わる社会制度や社会自然環境が人々の健康や安全に及ぼす影響を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れた公衆衛生における高度な専門人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		【基礎となる学部等】
	ヘルスイノベーション研究科 [Graduate School of Health Innovation]	年	人	年次人	人	修士（公衆衛生学）	年月 第年次 平成31年4月 第1年次	神奈川県川崎市川崎区 殿町3丁目25-10		該当なし
	ヘルスイノベーション専攻 [Health Innovation Program]		15		30					14条特例の実施
	計		15		30					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	平成30年4月 設置者変更 神奈川県→公立大学法人神奈川県立保健福祉大学									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
	ヘルスイノベーション研究科 ヘルスイノベーション専攻	31科目	15科目	4科目	50科目	42単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任等		
	新設分	ヘルスイノベーション研究科ヘルスイノベーション専攻 (修士課程)	12 (11)	0 (0)	4 (4)	1 (1)	17 (16)	0 (0)	31 (23)	
		計	12 (11)	0 (0)	4 (4)	1 (1)	17 (16)	0 (0)	-	
	既設分	保健福祉学研究科保健福祉学専攻 (博士前期課程)	34 (34)	28 (28)	10 (10)	0 (0)	72 (72)	0 (0)	49 (49)	
保健福祉学研究科保健福祉学専攻 (博士後期課程)		21 (21)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	14 (14)		
計		34 (34)	28 (28)	10 (10)	0 (0)	72 (72)	0 (0)	-		
合計		44 (43)	28 (28)	14 (14)	1 (1)	87 (86)	0 (0)	-		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		20 (20)	38 (38)	58 (58)					
	技 術 職 員		0 (0)	11 (11)	11 (11)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		22 (22)	52 (52)	74 (74)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	18,042㎡	0㎡	0㎡	18,042㎡	借用面積：1,260㎡ 借用期間：10年				
	運 動 場 用 地	6,722㎡	0㎡	0㎡	6,722㎡					
	小 計	24,764㎡	0㎡	0㎡	24,764㎡					
	そ の 他	14,318㎡	0㎡	0㎡	14,318㎡					
	合 計	39,082㎡	0㎡	0㎡	39,082㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：1,260㎡ 借用期間：10年				
		43,121㎡ (43,121㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	43,121㎡ (43,121㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	33室	14室	40室	2室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		ヘルスイノベーション研究科ヘルスイノベーション専攻		19 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	大学全体での共用部分 図書133,500冊、 学術雑誌4,270冊、 電子ジャーナル2,140 種、 視聴覚資料2,480点、 機械・器具2,903点、 標本102点		
	ヘルスイノベーション研究科	600 [100] (1,000 [400])	30 [10] (30 [10])	15 [15] (20 [20])	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計	600 [100] (1,000 [400])	30 [10] (30 [10])	15 [15] (20 [20])	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		2,789㎡	193		157,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		1,213㎡	テニスコート 2 面	フットボール場 1 面	トレーニングルーム 1 室					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書購入費には、電子 ジャーナル整備費（運 用コスト含む）を含 む。
		教員 1 人当り研究費等		666千円	666千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		5,000千円	5,000千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	18,525千円	40,000千円	30,000千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	設 備 購 入 費	83,000千円	40,000千円	10,000千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		県内 818千円 県外1,010千円	536千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分については、神奈川県からの運営費交付金を充当する。							

既設大学等の状況	大学の名称		神奈川県立保健福祉大学大学院						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		神奈川県横須賀市 平成町1丁目10番1
	保健福祉学部						1.01	平成15年度	
	看護学科	4	90	3年次8	376	学士(看護学)	1.00		
	栄養学科	4	40	3年次4	168	学士(栄養学)	1.01		
	社会福祉学科	4	60	2年次3	249	学士(社会福祉学)	1.03		
	リハビリテーション学科	4	40		160		1.02		
	理学療法専攻	(4)	(20)	-	(80)	学士(理学療法)	1.02		
	作業療法専攻	(4)	(20)	-	(80)	学士(作業療法)	1.02		
	保健福祉学研究科						1.22	平成19年度	
	保健福祉学専攻	2	20	-	40		1.27		
						- 修士(看護学)			
						- 修士(栄養学)			
						- 修士(社会福祉学)			
						- 修士(リハビリテーション学)			
	保健福祉学専攻	3	5	-	15	博士(保健福祉学)	1.00	平成29年度	
附属施設の概要	<p>名称：実践教育センター 目的：保健・医療・福祉業務従事者を対象とした卒業後教育機関 ※教育研修内容 ①指導・管理人材の育成 ②高度専門教育 ③総合連携教育 ④専門職員基礎研修 ⑤県・市町村職員研修 所在地：神奈川県横浜市旭区中尾1丁目5番1号 開設：平成15年4月 規模等：土地 9,182㎡、建物10,840㎡(神奈川県立よこはま看護専門学校の一部を使用)</p>								

教 育 課 程 等 の 概 要

(ヘルスイノベーション研究科ヘルスイノベーション専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	未病特論	1前	1			○									兼1		
	ヒューマンサービス特論	1前		1		○									兼1		
	ヘルスイノベーション概論	1前	1			○			2						兼3		
	データサイエンス	1後	1			○			1						兼1		
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」I	1後	1			○									兼1		
	小計(5科目)	—	4	1		—			3						兼5		
公衆衛生学基盤科目	疫学概論	1前	2			○			1		1	1			兼1		
	疫学研究	1前		2			○		1		1				兼1		
	疫学演習	1後		2			○		1		1				兼1		
	臨床試験	2前		1		○			1		1				兼1		
		小計(4科目)	—	2	5		—			1		1	1			兼1	
	領域統計学	生物統計学基礎	1前	2			○			1		1				兼1	
		生物統計学演習	1後		2			○		1		1				兼1	
		生物統計学応用	2前		2		○			1		1				兼1	
		データ統計解析演習	2前		2			○		1		1				兼1	
			小計(4科目)	—	2	6		—			1		1				兼1
	動科学領域	健康行動科学	1前	2			○			1		1				兼6	
		ヘルスコミュニケーション	1前		2		○			1		1				兼1	
		フィールド調査・研究方法	1前		2			○		1		1				兼5	
		社会健康学・社会疫学	1後		2		○			1		1				兼5	
			小計(4科目)	—	2	6		—			3		1				兼12
	環境保健領域	環境保健学	1後	1			○			1		1				兼1	
		産業保健学	1後		2		○			1		1				兼1	
		産業保健学演習	2前		1			○		1		1				兼1	
			小計(3科目)	—	1	3		—			1		1				兼1
		領域保健医療管理学	健康・医療政策	1前		2		○					1				兼2
	国際保健政策		1後		1		○						1			兼2	
医療経済学	1後		2			○			1						兼2		
ヘルスケア管理学	2前			2		○					1				兼2		
財政と社会保障	1前			2		○			1						兼2		
健康医療と法政策	1前			1		○									兼1		
	小計(6科目)	—	2	8		—			2		1	1			兼3		
	小計(21科目)	—	9	28		—			9		4	1			兼3		
ヘルスイノベーション専門科目	ヘルステクノロジー I	1後		1		○									兼1		
	ヘルステクノロジー II	2前		1		○									兼1		
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」II	1後		1		○									兼1		
	再生医療特論	1後		2		○									兼1		
	データサイエンス演習	2前		1			○		1						兼1		
	健康危機管理論	1後		2		○			2						兼1		
	インジュリー・コントロール	2前		2		○			1						兼4		
	未病社会のライフデザイン	1後		2		○					1				兼4		
	ヒューマン・ニュートリション	1後		2		○			1						兼1		
	ファイナンス・アカウンティング	1前		2		○									兼1		
	マーケティング・ストラテジー	1後		2		○									兼1		
	医療技術評価	2前		1			○		1						兼1		
	医薬品・医療機器開発	1後		2		○			2						兼1		
	小計(13科目)	—	0	21		—			8		1				兼3		
実践・特別研究科目	プレゼンテーション	1前		1			○					1			兼1		
	アカデミックライティング	1前		1			○								兼1		
	組織マネジメント	1後		1			○		2						兼1		
	アントレプレナーシップ I (アイデア創出)	1後		1			○		1						兼1		
	アントレプレナーシップ II (ビジネスモデル仮説検証)	2前		2			○		1						兼1		
	フィールド実習 I A	1-2通		2				○							兼1		
	フィールド実習 I B	1-2通		2				○							兼1		
	フィールド実習 II A	1-2通		4				○							兼1		
	フィールド実習 II B	1-2通		4				○							兼1		
	ヘルスイノベーション演習基礎	1後	2				○								兼1		
	ヘルスイノベーション演習	2通	6				○								兼1		
	小計(11科目)	—	8	18		—			3		1				兼3		
合計(50科目)			—	21	68		—		12		4	1			兼3		
学位又は称号		修士(公衆衛生学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
①必修科目21単位、選択科目から21単位以上を修得し、42単位以上修得すること。 ②科目区分ごとには、共通科目から4単位以上、公衆衛生学基盤科目から14単位以上、ヘルスイノベーション専門科目から6単位以上、実践・特別研究科目から11単位以上を修得すること。 ③修了要件は、2年以上在学し、所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受け、課題研究もしくは修士論文の審査に合格すること。						1学年の学期区分		2期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		90分									

授業科目の概要			
(ヘルスイノベーション研究科ヘルスイノベーション専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	未病特論	未病とは、人間の体の状態を「健康」と「病気」といった明確な区分で捉えるのではなく、この健康と病気の間を連続的に変化する状態を指す。近年は生活習慣病や老化に伴う虚弱化が大きな問題となっているが、高齢になっても健康的で自立した生活ができる「健康寿命」を延ばすためには、「未病」を改善することが重要である。この講義では、未病の定義や“人生100歳時代”における未病改善の意義、産官学における未病改善のための様々な取り組みについて紹介した上で、テクノロジーや社会変革の果たす役割等について議論する。	
	ヒューマンサービス特論	本科目は、本学の建学理念であるヒューマンサービスの基本的な考え方と実践について講義と討議の方法を併用して学ぶ。高齢化、少子化とグローバル化に象徴される急激な変動社会において、ヘルスイノベーション、政策立案及びマネジメントの向上に寄与しうる専門人材に如何なる人間理解が求められるか、なぜ各自の専門領域を越えて互いに連携し協働することが必要か、そして専門的な対人援助者として新たに求められる資質と専門的スキルとは何か、等について多角的視点から学ぶ。	
	ヘルスイノベーション概論	ヘルスケアをめぐる近年の急速な技術進歩やグローバル化の進展を理解するとともに、基礎的科学的から患者への提供にいたるヘルスケア産業のイノベーションの過程を取り上げ、国際的な比較を交えて、日本のイノベーション環境の評価を行う。また、「ヘルスケアにおけるイノベーション」を経済成長のための政策として捉える場合の留意点について理解する。それらに合わせて、先端医療技術の活用におけるリスクや不確実性、個人情報保護、倫理上の課題も取り扱う。具体的な事例としては、医薬品・再生医療・医療機器に関する研究開発や市場への導入プロセス等を扱うほか、ヘルスケアサービスの提供体制のイノベーションにおけるトピックも取り上げる予定である。 (オムニバス方式／全8回) (11 大西 昭郎／4回) オリエンテーション、健康、医療に係る技術動向、新しい技術や製品の開発に関連する制度、ヘルスケアサービスの提供に関連する制度、これらに関連する政策の動向などについての講義を担当する。 (11 大西 昭郎 21 林 良造／1回) (共同) 健康や医療に係る技術革新、グローバル化、各国間の制度の違いなどヘルスイノベーションの背景を考察し、ヘルスイノベーションの課題やテーマのフレームワークについて講義を行う。 (11 大西 昭郎 22 佐藤 智晶／1回) (共同) 健康や医療の分野での薬事や保険、さらには製造物責任などの諸制度について国際的な視点からの法制度的な違いやその背景などについて講義を行う。 (22 佐藤 智晶 9 昌子 久仁子／1回) (共同) 企業での医療機器や再生医療製品の開発・導入の事例などに基づく講義を担当する。 (23 黒河 昭雄／1回) 研究開発におけるイノベーションとして捉えられる医薬品産業における「オープンイノベーション」について、事例研究として紹介する講義を行う。	オムニバス方式、共同（一部）
	データサイエンス	近年、証拠に基づいた議論を重視する機運やビッグデータの利用可能性の高まりを受け、データサイエンスが注目を集めている。他方、データサイエンスという言葉自体はbuzzwordとして扱われる場面が散見される。そこでこの授業では、データを用いると何が出来るかという観点から、データサイエンスの輪郭を描くことを試みる。具体的には、データベースの概念やデータの可視化、推測統計学の利用及び機械学習について、それらの導入部を学習する。また、データのクリーニングやハンドリング、グラフ作成等についても説明する。	メディア併用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」I	本講義は、ヘルスイノベーションという本学のコンセプトのなかで、未来を考えるために重要な概念である「責任ある研究・イノベーション(RRI)」の基盤を理解するものである。具体的には、科学の成立の過程など、歴史的な事実を確認しながら、今日の生命科学のイノベーションの源流ともいえる、「ヒトゲノム計画」で提唱された「ELSI」(倫理的・法的・社会的問題)がどうして重要とされたのかを理解し、生命倫理や研究倫理といった概念を学ぶ。こうした知識の整理を行うことにより、手続き論として形骸化しつつあったELSIの重要性を再確認し発展させ、社会の期待、ニーズ、懸念等をあらかじめ可視化し、科学技術と社会の共進化を促進する「ヘルスイノベーションにおけるRRI」のありかたを探る。	
疫学領域	疫学概論	疫学研究方法論の基礎を講義すると同時に、実践での問題点と対応法について、事例研究(ケーススタディ)を通じて学ぶ。 クリニカルニーズを把握し、リサーチクエスションに発展させ、研究仮説を立て、適切なデザインを構築する過程および解析、解釈について学ぶ。疫学的思考、因果関係、信頼性の確保、疫学研究デザイン、バイアスや交絡因子、帰帰と相関、層別解析、モデルに基づく解析、生存時間解析、多変量解析諸手法、研究倫理行動規範、遺伝疫学までの理解を深める。	
	疫学研究	既存の疫学を超えて、疫学の分野で起きている変化とそのトレンドや起きそうな変化の兆候を見つけ、様々な方面からの解釈を見出す。それを研究に応用し、新しい疫学(健康に関する価値観など)を創り出すことを目的とする。 本科目では疫学概論で学んだ内容をもとに、医学・医療にとどまらず、幅広いヘルスケア分野の実地から1)リサーチクエスションを見出し、2)研究仮説を立て、3)仮説に合ったデザインを構築し、4)データ収集を行い、5)適切なデータ解析を実施して意味のある分析結果を出し、6)学術的に妥当な解釈を行うという一連の研究方法について演習を通じて学ぶ。	講義14時間、演習16時間 共同
	疫学演習	本科目では、疫学概論、疫学研究で学習したことを基にして、公衆衛生学上の課題を抽出し、臨床疫学的手法を活用することにより、その解決方法を議論し、提示できる能力を身につける。スモールグループ別に未病対策/予防医療、がん対策、循環器病対策、老人保健、地域医療、健康教育、ゲノム医療、精神保健、環境衛生、産業保健の分野から、解決すべき課題を抽出し、その解決するための臨床疫学的なアプローチを提案し、その妥当性や有効性を議論する。	講義4時間、演習26時間 共同
	臨床試験	疫学概論および疫学研究、疫学演習で学習したことを踏まえ臨床研究、臨床試験、治験の概要について講義を行い、治験実施の流れやなぜプロトコルが必要かなど、臨床研究の概要について学ぶ。またこれらの臨床研究、臨床試験に関する法規、指針、データ管理方法についても学習する。演習では、研究における標準業務手順の作成方法、前臨床試験および臨床試験において関与する法規とプロトコル作成方法を演習を通じて学習する。さらに具体的なシーズを取り上げて、評価・選定のシステムを学習する。 (オムニバス方式/全8回) (1 成松 宏人 13 中村 翔/2回) (共同) 臨床研究、臨床試験、治験の概要や、それらに関する法規、指針等の概論について講義する。 (24 阪口 昌彦/6回) 臨床試験に関わる各種法規制等についての講義や、プロトコル作成方法に関する演習を担当する。	講義10時間、演習5時間 オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生物統計学領域	生物統計学基礎	<p>生物学的実験、臨床試験、および健康調査記録は、常にある程度の不確実性を伴う。多くの場合、特にラボラトリにおける実験では、観測値が大きく変動するため、不確実性を無視することはできないが、統計解析ツールはこれらの不確実性を分析し、実験から得られた様々なデータからノイズをフィルタリングするのに非常に役立つ。データを解析するには、統計解析ツールを一つのモデルに統合する必要がある。このコースでは、必要な統計ツールについて解説する。</p> <p>(1) 観測値の分析 (2) 新しい実験のデザイン (3) 多数の観測値を一つのモデルへ統合</p> <p>このコースでは、統計解析ツールの理論のほかにRソフトウェアを用いた講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2) 竹内 正弘/5回) データの特性に応じた集計方法、視覚化方法、代表値、対応の有無、t検定およびWelchのt検定、2元ANOVA、MANOVAについて担当する。</p> <p>(15) 方 雪敏/6回) Rの統計パッケージを用いて、データを集計・図示、要約統計量の計算、検出力やサンプルサイズを計算、分散分析表、多重性の調整、t検定や分散分析、序数およびロジスティック回帰、および複数ロジスティック回帰テクニックを含む回帰分析、ノンパラメトリック検定について担当する。</p> <p>(25) 朴 慶純/4回) 帰無/対立仮説、過誤の確率、検出力、必要標本数の推定、信頼区間、順位、位置に関する検定について担当する。</p>	オムニバス方式
	生物統計学演習	<p>既に公開されている臨床研究データ、もしくは臨床研究から得られた実データに基づいた疑似データを用いて、一連の統計解析を実施し報告書にまとめる。統計解析手法の選択理由や得られた結論を説明し、討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2) 竹内 正弘/7回) 既に公開されている臨床研究の結果と報告書について担当する。</p> <p>(15) 方 雪敏/8回) 自立した統計解析担当者として、統計手法を的確に選択し、結果の正しい解釈ができるよう、演習を行う。</p>	オムニバス方式
	生物統計学応用	<p>このコースでは、基本原則に基づいた生物統計学の高度なトピックを学ぶ機会を提供する。対象となる内容により、研究デザインと分析の観点から臨床研究データを理解し分析することができるようになる。取り上げるトピックは次のとおり。</p> <p>(1) 臨床試験のデータ分析、クラスター無作為化試験、交差試験、および反復測定などの関連推論試験。 (2) 発生率データ、生存分析および比例ハザードを含む生存時間データの分析。 (3) パワーと標本サイズの分析とメタ分析に関する高度な疫学的手法。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2) 竹内 正弘/5回) 生存関数に関する推測およびCoxの比例ハザードモデル、論文で報告されている結果の解釈について担当する。</p> <p>(15) 方 雪敏/6回) 割合の標本分布、Rなどの統計パッケージを用いて、データを集計・図示、比率の推測、分割表の解析、回帰分析、生存時間解析、正しい結果の解釈について担当する。</p> <p>(26) 竹内 円雅/4回) 2つの連続変数間の関連の強さの指標、2値データに対する共変量調整方法である多重分割表について担当する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データ統計解析演習	<p>①多重比較（FDA で毎年実施されているショートコースや最新のNew Drug Application(NDA)の例を用いて議論する） ②抗がん剤臨床試験（抗がん剤臨床試験における問題点を議論する） ③臨床試験一般（幾つかの論文が与えられ、選択された試験デザイン、適用された統計手法、結果の解釈の妥当性を議論する） ④回帰分析、分散分析、ロジスティック回帰分析、Cox比例ハザードモデルにおける共変量調整問題を実例を通して議論する。 ⑤実例に基づいた経時測定データ（たとえばQOLデータ）の統計解析上の問題点を議論する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 竹内 正弘／6回） 臨床試験デザイン、臨床試験報告書の説明について担当する。</p> <p>（15 方 雪敏／9回） 多重比較、抗がん剤臨床試験、臨床試験一般、回帰分析、分散分析、ロジスティック回帰分析、Cox比例ハザードモデルにおける共変量調整問題、実例に基づいた経時測定データについて担当する。</p>	オムニバス方式
公衆衛生学基盤	健康行動科学	<p>行動科学理論に基づき人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識を学習することで、科学的かつ効果的な健康の維持・増進のための施策を立案する方法を学ぶことを目的とする。また、人がどのように日々の健康行動を選択しているのかを理解するとともに、認知行動療法やコーチング等の行動医学理論・手法を学ぶことで、行動変容のための基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目標とする。地域・職域・教育領域への政策提言も含め、様々な公衆衛生学の課題解決力を向上させるような人材育成を目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（16 津野 香奈美／5回） 行動科学の歴史、社会経済的要因と健康、個人の行動特性と健康、ストレスと健康、健康教育・保健指導と行動変容モデルについて講義を行う。</p> <p>（27 中田 光紀／1回） 行動科学の基本理論について講義を行う。</p> <p>（4 吉田 穂波／1回） ライフサイクル・発達段階と健康について講義を行う。</p> <p>（28 平井 啓／1回） 問題解決と意思決定支援について講義を行う。</p> <p>（29 渡辺 和広／1回） 認知行動療法について講義を行う。</p> <p>（30 近藤 尚己／1回） 行動経済学から見た健康行動について講義を行う。</p> <p>（31 松本 晴樹／1回） 健康行動への介入と政策決定について講義を行う。</p> <p>（32 鎌田 真光／1回） 行動科学の実践例について講義を行う。</p> <p>（16 津野 香奈美 4 吉田 穂波／3回）（共同） 行動科学の観点から行う健康の保持増進対策立案に関し、グループワーク及び課題発表を共同で担当する。</p>	オムニバス方式、共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目 社会行動科学領域	ヘルスコミュニケーション	本講義の目的は、ヘルスコミュニケーションの理論と実践を体系的に学習することであり、様々な背景を持つ受講生がヘルスイノベーションの基盤としてその概要を知ることである。保健医療分野のコミュニケーションは、地域や保健医療機関における保健医療従事者間、医療従事者と患者間、対住民、対社会、対企業、対マスメディア等における情報伝達手法を対象とする。昨今ではインターネットやSNS等の存在が増大しているため、伝達対象や伝達効果の差異を踏まえ最も効果的な手法について検討することが出来る人材を育成する。	共同、メディア併用
	フィールド調査・研究方法	保健医療・公衆衛生の領域で行われるフィールド（学校、職域、地域、場合によっては国全体）調査では、コントロールされた環境での臨床研究と異なり、利用可能なデータの種類と質に大きな限界がある上に、調査への協力を得ることも容易ではない。このような制約下にあっても、可能な限り科学的な調査を行い、意思決定・評価を誤らないことが重要である。本演習では、フィールドにおける調査・研究の質を向上するための、デザイン、データ選択、データ収集、分析、結果の解釈などの方法を習得することを目指す。	
	社会健康学・社会疫学	<p>効果的な保健医療政策を考える場合、地域格差と健康格差、ソーシャルキャピタル、社会参加等の健康の社会的決定要因や社会階層を抜きにしては語れない。これらの社会疫学について、その基本的な考え方や重要な概念を整理し、事例や研究レビューにより検討を行う。人間関係や文化、経済環境や教育水準が健康に与える影響、貧困、働き方など職域における課題について学び、地域の健康水準の向上に資する政策提言へ応用できる知識と技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 津野 香奈美／6回) 社会疫学とは、社会経済的状况と健康、所得格差、人種とジェンダー格差、差別、ソーシャル・キャピタルについて講義を行う。</p> <p>(34 坪谷 透／2回) 社会ネットワークと健康、地域環境と健康について講義を行う。</p> <p>(35 井上 まり子／1回) 労働環境と健康について講義を行う。</p> <p>(30 近藤 尚己／1回) 政策と社会疫学研究について講義を行う。</p> <p>(36 阿部 彩／1回) 健康格差解消のためのアプローチ（1）子どもの貧困対策について講義を行う。</p> <p>(37 島津 明人／1回) 健康格差解消のためのアプローチ（2）職域への介入について講義を行う。</p> <p>(16 津野 香奈美 4 吉田 穂波／3回) (共同) 社会健康学・社会疫学の視点を踏まえた保健医療政策立案に関し、グループワーク及び課題発表の回を共同で担当する。</p>	オムニバス方式、共同（一部）
	環境保健学	人を取り巻く環境が健康に様々な影響を及ぼすが、中でも有害な環境のリスクアセスメントとリスクマネジメントは公衆衛生上重要な課題である。環境には家庭内や職場環境などの限局されたものから、広く地域全体に及ぶもの、あるいは地球規模のものまでであることを理解させ、またその原因には生物学的、化学的、物理的、その他があることを理解させる。その上で様々な環境問題のリスクアセスメントとリスクマネジメントの方法の基礎までを学ぶとともに、当該分野におけるイノベーションの可能性について議論する。	メディア併用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境保健学領域	産業保健学	<p>労働者にとって多くの時間を過ごす職場の環境は健康を左右する大きな一因である。職場の衛生環境を改善させることは労働生産性を向上させるだけではなく、人口の過半数を占める国民の健康状態の改善につながる。労働衛生の基礎である作業環境管理、作業管理、健康管理、健康教育、健康管理体制の概要について理解させ、医学的知見に基づいたあるべき労働環境の構築において、医療と企業の関わり方、自治体や国家の支援方法、法の整備の必要性などについて学ぶとともに、産業保健分野におけるイノベーションの可能性について議論する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 徳野 慎一／8回) 産業保健概説、労働衛生の5管理、産業中毒、職業癌、その他の職業病、産業保健活動におけるアセスメントとマネジメント、健康情報保護、産業保健各論(産業医の立場から、企業の立場から、イノベーション事例)を担当する。</p> <p>(16 津野 香奈美／5回) 産業保健関連法規、過重労働、メンタルヘルス、職場における多様性の理解、産業保健各論(企業の立場から)を担当する。</p> <p>(38 吉村 健佑／1回) 産業保健各論(行政の立場から)を担当する。</p> <p>(5 徳野 慎一 16 津野 香奈美／1回) (共同) 課題発表と総括について共同で担当する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)
	産業保健学演習	<p>産業保健活動を実施するには、知識だけでなく実際の技術的活動が必須である。実際は、それぞれの専門家(産業医、保健師、衛生管理者、衛生推進者等のスタッフ、労働衛生コンサルタント、作業環境測定士、健康保持増進(THP)のスタッフ等)が実施する活動であるが、理解しておく必要がある。労働衛生の基礎である作業環境管理、作業管理、健康管理、健康教育、健康管理体制の5管理における基礎的な技能を体験し、討論やグループワークにより方法論・技術的活動の内容についての理解を深めることで、課題研究やフィールド実習につなげる。</p>	共同
	健康・医療政策	<p>保健・医療・福祉・介護など、健康に関する日本の制度や政策に関して、その背景や現状における諸課題について、行政・経済・政治・産業など多角的な視点から理解した上で、今後の健康・医療戦略の在り方、具体的な政策展開における障壁とその対応策について議論を行う。原則として授業時間は、ディスカッションやケーススタディなどを実施するため、健康制度をはじめ基本的な知識習得は事前に配付する資料等で予習を行うこと。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(17 渡邊 亮／7回) 健康・医療政策の現状と全体像について講義を行う。</p> <p>(17 渡邊 亮 23 黒河 昭雄／5回) 健康・医療政策における科学的意思決定について講義を行う。また、ワークショップを共同で担当する。</p> <p>(39 森田 朗／3回) 健康・医療財政について講義を行う。</p>	オムニバス方式、共同(一部)、メディア併用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健医療管理 学領域	国際保健政策	国際的な人材を輩出するために、グローバルヘルス領域の主な最新の課題とその理論的背景に加えて、政策課題として発展する統計解析と解釈のための実践的演習を行う。 グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。各国での保健医療制度などの政策や、リスク因子、保険サービス、疾病負担、疾患サーベイランス、多国籍多施設共同での研究調査の実際について理解する。また、グローバルアプローチをするためのヘルスイノベーションの重要性について習得する。	メディア併用
	医療経済学	わが国の公的医療保険制度に基づく医療の成果は世界有数である一方、今後進展する少子超高齢社会を考えると、持続可能な制度であるためにはより多くの議論が不可欠であり、その議論は高齢社会に向かう多くの国にとっても有用である。その道具立てとして、患者や医師、医療機関の行動をモデル化し、ある制度や規制が患者や医師の行動にどのような影響を与えるのかについて学ぶことが不可欠となる。本講義では、わが国の医療制度を概観したうえで、それらがもたらす問題点についてミクロ経済学の知識を用いて理解することを目的とする。	
	ヘルスケア管理学	医療機関、介護保健施設、薬局など主に保健医療サービス提供組織における経営管理に関して、組織を取り巻く制度や環境、基本的なマネジメントの知識を学んだ上で、ケーススタディやグループディスカッション等を通じてヘルスケアにおける組織管理の実践的なスキルを滋養する。本講義を通じて、効率的で質の高いサービス提供を行うことができる管理者としての素養を習得する。本科目は、「組織マネジメント」「ファイナンス・アカウンティング」「マーケティング・ストラテジー」「健康・医療政策」などと密接に関連する。	メディア併用
	財政と社会保障	社会保障の財政について、医療および医療と密接な関連をもつ分野を中心に検討する。歴史的経緯と諸外国との比較を踏まえ、現状と改革課題を考える。具体的には、①財政全体に占める社会保障の位置、②財政方式と費用負担、③医療保険と財政、④介護保険と財政、⑤生活保護・年金等の所得保障と財政、⑥社会保障財政の課題等について学習する。講義のほか、法学・経済学・政治学関係の文献講読や、ディスカッションを取り入れて行う予定である。	
	健康医療と法政策	本講義は、ヘルスイノベーションを支援するための法政策のあり方について、日本はもちろん海外の事例をもとに、ケースメソッドの形式で学ぶ。本講義では、法学の基礎的な知識がある学生だけでなく、まったくない学生でも学べるように、法学未修者向けの内容から始めて、まだ日本の最高裁判例や、世界でも支配的な見解のないケースについて分析し、複数の選択肢からよりよい法政策を見つけ出すプロセスを扱う。そして、健康医療に関する世界初の事例についても臆せず対応できるためのリーガルリサーチとプランニングの能力を習得する。	メディア併用
	ヘルステクノロジー I	ゲノム編集のような手法が一般化し、抗体医薬や再生医療、遺伝子治療といった革新的治療法が臨床の現場に登場し始める一方で、人工知能を用いた遠隔診療や、ビッグデータの活用による新しい診断技術の創出など、これまでの医療が一変する可能性も生まれている。こうした状況を把握し、研究の動向を知ることはヘルスイノベーションを創出するためには必須である。本科目では、先端領域の研究の概念について理解するとともに、行政や立法など、新しい医療をつくるために必須の体制についても触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヘルステクノロジーⅡ	本講義では、ゲノム編集や遺伝子治療、細胞治療のような新しい治療法のほか、人工知能を用いた治療戦略の開発や、創薬シーズの発見といった研究の最先端について、第一線の研究者による講義を実施し、研究の先端に触れる機会を持つ。また、こうした新しい技術がどのように産業振興と結びついてきたかについても理解し、産学官の連携の重要性についても理解することを目指す。ヘルステクノロジーIで学習した規制科学などと組み合わせ、現在の社会的問題への新たな解決策を考察する。	
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」Ⅱ	本講義は、ヘルスイノベーションという本学のコンセプトのなかで、未来を考えるために重要な概念である「責任ある研究・イノベーション(RRI)」について、「ヘルスイノベーションにおける責任ある研究・イノベーション(RRI)I」をより具体的・実践的なものとして考えるものである。生命科学の振興政策はどのような過程で決定されるのか、そのインパクトの評価はどのようになされるかといった問題から、再生医療の歴史とその倫理問題、そして科学を社会に伝えるための科学コミュニケーションや科学ジャーナリズムについて体系的に学び、ライフイノベーションが社会から付託されている責任について理解し、社会とともに新しい医療技術を創るための方法を考察するものである。	
	再生医療特論	再生医療とは、病気や傷害などによって失われた臓器や組織の機能を、培養した細胞・組織や人工材料との組み合わせにより根治を目指す医療である。アンメット・メディカル・ニーズを満たす治療法であるため、大学や企業など様々なプレイヤーが一日も早い臨床応用を果たすべく世界的な競争が行われている。本講義では、政府による研究振興策から再生医療の科学的な基礎、臨床の最前線について網羅的な講義を行う。これらの講義を通じて、再生医療の将来を展望し、イノベーションのあり方を考察する。	
	データサイエンス演習	本演習では、「データサイエンス」で習得したデータマネジメントの知識を用い、実際にデータを用いた分析を行う。分析ツールとしては最も基本的である回帰分析から習得を始める。また、各種の推論を行う上で強力なツールとなる、パネルデータモデルについても演習を行う。本演習を通じて、データと向き合うために必要な、最低限のツールを取得でき、データ分析のリテラシーを得ることができる。なお、これらの分析を行うためのソフトウェアとしてはStataを用いる。	メディア併用
	健康危機管理論	<p>健康危機管理とは医薬品、食中毒、感染症、飲料水その他何らかの原因により生じる国民の生命、健康の安全を脅かす事態に対して行われる健康被害の発生予防、拡大防止、治療等に関する業務をいうが、その他の原因には地震などの自然災害、工場爆発などの人為災害、テロや犯罪などが含まれる。健康危機管理における国家・自治体の役割とその法的根拠の概要について理解させるとともに、災害や感染症アウトブレイクなどの複数の実例を通してより理解を含める。また、企業等のBCP(事業継続計画)と健康危機管理の関係についても言及する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 徳野 慎一/9回) 総論(健康危機管理概説、自然災害、人為災害、メンタルヘルス、リスクコミュニケーション、事業継続計画(BCP))、各論(地下鉄サリン事件、イラク復興支援、熊本地震)を担当する。</p> <p>(4 吉田 穂波/2回) 総論(感染症、医薬品・飲料水)を担当する。</p> <p>(5 徳野 慎一 4 吉田 穂波/4回)(共同) 各論(新型インフルエンザ機内検疫、東日本大震災、福島第一原発事故)、課題発表、総括を担当する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ヘルスイノベーション専門科目	インジュリー・コントロール	<p>communityにおいて、安全で健康的な生活を送るために必要な方策の理論的背景について理解することを目的とする。安全は健康的な生活の基盤であり、紛争、犯罪などの心配がないだけでなく、injury のリスクが低くなければならない。安全は広い概念であるので、本コースではinjury controlを主に扱う。Injuryとは外傷だけでなく外因による非外傷性の傷病も含むものである（暴力、自傷、「事故」によるものをすべて含み、機序としては外力による損傷だけでなく、熱傷、溺水、異物、中毒なども含む。）。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 中原 慎二／8回) 総論とInjuryの疫学を担当する。</p> <p>(40 市川 政雄／3回) セーフティー・プロモーションを担当する。</p> <p>(41 藤田 尚／2回) 交通外傷予防を担当する。</p> <p>(43 伊藤 香／1回) 外傷診療・救急医療を担当する。</p> <p>(42 神田 潤／1回) 熱中症予防を担当する。</p>	オムニバス方式
	未病社会のライフデザイン	<p>超高齢社会を迎えた現代において、人は一生を通じて健康を謳歌し続けることができるわけではない。疾病が無くとも何らかの不調や障害を抱えながら生活することは高齢者に限られるわけではなく、未病と向き合いつつライフデザインを行っていくことが、幸福な人生を送る上で重要である。本講義では、幼児期から高齢期に至る各ライフステージにおける様々な健康課題に焦点を当てて、人の持つ機能的な能力を維持・向上させるための方策について検討・議論を行う。</p>	
	ヒューマン・ニュートリション	<p>現代社会における人の栄養学、および生物種としてのヒトの栄養学などを学ぶ。近年、高齢化、単身化、個（孤）食化、IT化などの様々な社会現象が加速している。これらを考慮しながら、保健・医療・福祉における人の栄養学（人間栄養学）を学ぶ。また、食事由来の栄養素の吸収・代謝に加え、市場の健康食品・サプリメント・人工甘味料などについても学ぶ（ヒトの栄養学・食品機能学）。さらに、傷病者における病態と栄養・代謝の特殊性について理解を深め、摂取した栄養素の生体内で果たす役割と意義を学ぶ（臨床栄養学）。</p>	
	ファイナンス・アカウントティング	<p>本科目では、キャッシュフローの基礎と、それに関連する企業金融における課題について学ぶ。授業のトピックは、財務諸表とキャッシュフロー、貨幣の時間的価値、資本予算、資本コスト、また、いくつかの企業金融論などである。これらのコンセプトを理解することは、プロジェクトや会社の評価をするための基礎となる。加えて、簡単な計画評価やケースディスカッションについても試みる。</p>	メディア併用
	マーケティング・ストラテジー	<p>本科目では、国内外の新旧の事例を取り上げることにより、マーケティングの本質について理解を深め、環境の変化を的確にとらえ顧客価値創造を実現するためのプロセスを習得する。すでにヘルスケア産業で活躍しているビジネスパーソンにとっては、理論を確認しつつ業界に押し寄せる破壊的変化の波をチャンスに変えるためのヒントを掴む場となることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医療技術評価	<p>医療技術の医学的、経済的評価の方法について学ぶ。経済的評価としての医療経済評価の分析手法を学ぶ。実務的に判断分析モデル、マルコフモデル等を表計算ソフトで作成し、シミュレーションするとともに、実際の医薬品、医療機器についての分析を演習によって行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 坂巻 弘之/4回) 医療技術の医学的、経済的評価に関する講義全般及び演習をで担当する。</p> <p>(10 坂巻 弘之 46 大野 慎也/2回) (共同) ケースによる分析モデル作成について、共同で担当する。</p> <p>(10 坂巻 弘之 47 村田 達教/2回) (共同) 表計算モデルによるシミュレーションモデル作成について、共同で担当する。</p>	講義2時間、演習13時間 オムニバス方式、共同 (一部)
	医薬品・医療機器開発	<p>医薬品・医療機器、再生医療製品、一般用医薬品等の開発に係る事例について、ゲストスピーカーによる講義とグループでの議論を行う。 実例をもとに、議論を通して医薬品・医療機器等の開発に関わる諸課題とそれらを具体的にどのように解決していったのか、成果を上げるためには何を考えるべきか、何をすべきかを体得する。 さらにグループワークにより時間内で議論をまとめ、発表内容をまとめるためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。また、医薬品、医療機器の流通と知的財産権について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 坂巻 弘之 9 昌子 久仁子/5回) (共同) 医薬品、医療機器開発概論とレギュラトリーサイエンス、薬価制度と医療機器の保険価格、医薬品・医療機器・再生医療の審判と承認及び規制の講義及び総合討論を共同で担当する。</p> <p>(10 坂巻 弘之/4回) 医薬品開発、規制について担当する。</p> <p>(9 昌子 久仁子/6回) 医療機器開発、規制について担当する。</p>	オムニバス方式、共同 (一部)
	プレゼンテーション	<p>プレゼンテーションの仕方や方法は、予算の獲得やサービス提供先の受け入れ状況に重要な役割を示す。自分の製品や研究成果をファンダー、サービスの受け取り手にとって魅力的なプレゼンテーションをする方法を実践型で身につけることにより、同時にコミュニケーション能力を強化し、グローバルでの業務遂行・管理能力の獲得も目指す。特に、医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者およびユーザー支援組織、マスコミ等でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。</p>	
	アカデミックライティング	<p>本講座の目的は、ヘルスイノベーション分野における学術論文、報告書を英文で執筆するための技法を学ぶことである。英語学術論文執筆においては、学術論文作成のためのルールを理解することと、具体的な執筆の手順を理解することが求められる。そこで、本講座では各回のテーマに沿っての講義と連動して、学生には具体的に小論文を書き進めて貰う。全8回で1本の小論文を書き上げ、発表することで具体的かつ実践的な論文作成の技法の習得を目指す。</p>	
	組織マネジメント	<p>研究開発や市場開発などの実務を進めていくうえで、チームや組織のマネジメントの考え方や事例を理解することは不可欠である。リーダーシップとチームワークを活かすことで、組織やチームの生産性や成果は大きく向上しうる。実社会で必要となる社会人基礎力としての組織マネジメントの知識や手法、その実務についての理解を深めることを目的とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アントレプレナーシップⅠ (アイデア創出)	<p>アントレプレナー意識の醸成とアイデア創出を効果的かつ実践的に学ぶため、次の二つを並行して行う。</p> <p>①デザイン思考とバイオデザインを用いたアイデア創出ワークショップ</p> <p>②医療分野のアントレプレナー等による体験の共有</p> <p>①では、チームを組み、医療にかかるニーズ探索、選択、コンセプト創造までを、ワークショップ形式による発散と収束により行う。</p> <p>②では、医療分野でのアントレプレナー、投資家をゲストに招き、アイデア創出に至る道筋や起業の実体験を共有し、医療分野におけるイノベーションの理解を促進し意識を醸成する。</p>	講義4時間、演習11時間
	アントレプレナーシップⅡ (ビジネスモデル仮説検証)	<p>自らのアイデアや研究成果を基にビジネスモデルを構築し、仮説検証を繰り返しながらそれをブラッシュアップすることで、事業立ち上げ手法の基礎を実践的に学ぶ。具体的には、新規事業立ち上げのための理論である『ビジネスモデルキャンパス』と『リーンスタートアップ』を、顧客インタビューに基づき、ビジネスモデルの仮説検証を繰り返す中で実践的に学ぶ。講義では、医療分野におけるイノベーションの特徴や最新トピックに触れつつ、グループワーク、プレゼンテーション、フィードバックを行う。</p>	講義6時間、演習24時間
	フィールド実習ⅠA	<p>本科目の狙いは、本研究科における各授業で学んだ健康・医療を取り巻く課題、そして様々なテクノロジーや制度について、実際に自身で体感した上でその改善に向けた方策を検討することである。フィールド実習では現状の体験や理解に留まるのではなく、建設的かつ批判的な現状分析と論理的思考に基づいて、テクノロジーの活用やイノベーションによる改善の方法と、その実現に求められる具体的な道筋を検討することが強く期待される。</p> <p>フィールド実習ⅠAでは、市場経済を主に構成するプライベート・セクターをフィールドとして、産業界における先進的なマネジメント・テクノロジー・イノベーションを実際に学び、得られた知見を自身の設定する課題解決の方策に紐づける事を目的とする。</p>	
	フィールド実習ⅠB	<p>本科目の狙いは、本研究科における各授業で学んだ健康・医療を取り巻く課題、そして様々なテクノロジーや制度について、実際に自身で体感した上でその改善に向けた方策を検討することである。フィールド実習では現状の体験や理解に留まるのではなく、建設的かつ批判的な現状分析と論理的思考に基づいて、テクノロジーの活用やイノベーションによる改善の方法と、その実現に求められる具体的な道筋を検討することが強く期待される。</p> <p>フィールド実習ⅠBでは、予め受講生が取り組みたい課題設定を行った上で、国際機関・行政機関・医療機関やNPO/NGOをはじめとしたパブリック・セクター、または研究機関などのアカデミック・セクターをフィールドとし、フィールド先で得られた知見を課題解決の方策に紐づける事を目的とする。</p>	
	フィールド実習ⅡA	<p>本科目の狙いは、本研究科における各授業で学んだ健康・医療を取り巻く課題、そして様々なテクノロジーや制度について、実際に自身で体感した上でその改善に向けた方策を検討することである。フィールド実習では現状の体験や理解に留まるのではなく、建設的かつ批判的な現状分析と論理的思考に基づいて、テクノロジーの活用やイノベーションによる改善の方法と、その実現に求められる具体的な道筋を検討することが強く期待される。</p> <p>フィールド実習ⅡAでは、市場経済を主に構成する国内外のプライベート・セクターをフィールドとして、産業界における先進的なマネジメント・テクノロジー・イノベーションを実際に学び、得られた知見を課題研究または修士論文における研究と紐付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フィールド実習ⅡB	<p>本科目の狙いは、本研究科における各授業で学んだ健康・医療を取り巻く課題、そして様々なテクノロジーや制度について、実際に自身で体感した上でその改善に向けた方策を検討することである。フィールド実習では現状の体験や理解に留まるのではなく、建設的かつ批判的な現状分析と論理的思考に基づいて、テクノロジーの活用やイノベーションによる改善の方法と、その実現に求められる具体的な道筋を検討することが強く期待される。</p> <p>フィールド実習ⅡBでは、予め受講生が取り組みたい課題設定を行った上で、国内外の国際機関・行政機関・医療機関・NPO/NGOをはじめとしたパブリック・セクター、または国内外の研究機関などのアカデミック・セクターをフィールドとし、フィールド先で得られた知見を課題研究または修士論文における研究と紐付ける。</p>	
実践・特別研究科目		<p>(概要)</p> <p>今までの業務上の経験、コースワークやフィールド実習で得た気づきや学び、そして各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、課題研究報告書または修士論文の作成に必要な、知識やスキルの修得を進めると共に、参考文献や関連情報の調査などについて学び、研究計画の策定に向けた準備を行う。</p> <p>(1 成松 宏人) (13 中村 翔)</p> <p>既存の研究論文の吟味から課題抽出を行い、オリジナルなリサーチクエストを導き出し、それを解決しうるフィールドやデータ、サンプリング、分析手法を含めた研究の立案に関する研究を担当する。</p> <p>また、臨床における課題を抽出し、それを解決しうる臨床試験のプロトコルを作成し、その実施・分析を通じた研究を担当する。</p> <p>(2 竹内 正弘)</p> <p>既存のデータベースに対し個々の研究課題を立て、R・SASなどの統計パッケージを用いて統計解析を行い、結果の解釈や考察を通じて仮説を立証し課題を解決するための研究を担当する。</p> <p>また、実例に基づいた経時測定データ（たとえばコホート研究やケースコントロール研究のデータベース）について、臨床統計学的な研究デザインを構築し、診療指針策定や治療戦略立案等に関する統計学的分析のための研究を担当する。</p> <p>(3 中原 慎二)</p> <p>各人の職域あるいは他の任意のフィールドにおける健康課題を抽出し（ヘルスサービスがフィールドとなる場合にはサービスデリバリーの課題もあり得る）、その解決のために必要なデータ、サンプリング、調査方法、分析の方向性についてフィールド調査計画を立案、分析し政策提案を行う。すでに何らかの政策・施策が実施されている場合にはその評価を行い、効果が低い場合には改善策の提案を行う。</p> <p>また、グローバルに重要性の高い公衆衛生上の課題に関する疫学研究を立案、データ分析し、考察や政策提案を含めた研究について担当する。</p> <p>(4 吉田 穂波)</p> <p>デジタル情報時代におけるヘルスコミュニケーション理論をふまえ、実践可能なコミュニケーションについて、1つの課題を設定し、既存のエビデンスをもとにさらなるイノベーションの可能性を精査する。</p> <p>地域社会や、対医療従事者、对患者、対住民、対社会、対企業、対マスメディア等を含めた保健医療分野における伝達対象や伝達効果の差異を踏まえ最も効果的な手法について実証研究の中で仮説検証を行い、分析結果から社会実装の要件について明らかにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヘルスイノベーション演習基礎	<p>(5 徳野 慎一) 日本の労働衛生の管理体制や制度設計を基にしたストレス・マネジメントやメンタル・ヘルスを含めた産業・労働衛生領域の研究を担当する。 また、産業保健アセスメントツールやマネジメント手法をふまえ、医療領域や企業、自治体や国家、法の視点から科学的知見に基づいたあるべき労働環境の構築に関する研究について担当する。</p> <p>(6 川村 顕) 政府統計や行政記録情報等の既存データを用い、医療サービス市場における需要や供給等の意思決定に関わるリサーチクエストionsについて、統計的に検証するような研究を担当する。統計ソフトウェアはStataを用いる。</p> <p>(7 西村 淳) 医療・介護を中心とした社会保障財政の現状と方向性を踏まえて、社会保障財政の適正化、改革動向、提供体制との関連等の観点からの課題抽出と整理を行う。 具体的には、医療保険財政、介護保険財政、国と自治体の財政と社会保障、社会保障の財政方式と費用負担等の中から課題を選び、その分析方法や解決方法に関する研究を担当する。</p> <p>(9 昌子 久仁子) 医薬品・医療機器など、医療の改善に資する技術革新やその実用化・市場創出における国内外の制度的・社会的諸課題、イノベーションを創出できるチームや組織の要因を明らかにするため、比較分析や組織分析、事例研究などに基づいたヘルスイノベーション研究を担当する。</p> <p>(10 坂巻 弘之) 薬価ならびに保険医療材料価格についての制度分析や実際に設定された価格に対する医療経済評価からの分析・評価など、薬務政策に関わる研究や、個別医療技術についてシミュレーションモデルを用いた医療経済分析研究を担当する。 また、医薬品・医療機器・再生医療等の医療技術の市場動向、これら医療技術の流通と薬局経営、グローバルでの日本の位置付けとその課題を踏まえたうえで、保健医療政策と産業振興政策の分析を踏まえたヘルスイノベーションに関する研究を担当する。</p> <p>(11 大西 昭郎) 医薬品、医療機器、再生医療、医療ICTなどに代表される健康・医療の分野における技術革新の動向とその実用化に関連する諸課題とそれらへの対応に関して、内外の制度や政策の比較分析などの研究を行う。 また、医薬品、医療機器、並びにヘルスケアのサービスの市場や産業についての内外の動向やその背景についての知見を深めることで、ヘルスイノベーションの実現に求められる施策や政策についての視座やフレームワークの再整理も試みる。</p> <p>(12 島岡 未来子) 医療、保健福祉分野における社会的課題をいかに解決するかに焦点をあてその分析方法や解決方法に資する研究を担当する。 具体的には、医療や保健福祉にかかる現場の課題を、イノベーション、公共経営、協働ガバナンスの問題意識に基づき観察し、課題を抽出し、既存の研究論文のレビューから、理論と現実の間のギャップを抽出する。そのギャップからリサーチクエストionsを導き出し、定量的、定性的な手法によりクエストionsへの解を明らかにすることに取り組む。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(13 中島 啓) 未病状態や肥満・糖尿病・腎不全などの病態と、栄養・代謝との関連につき課題を設定し、臨床栄養学における分析手法を用いた研究について担当する。 また、栄養素の吸収・代謝や、健康食品・サプリメント・人工甘味料などの知識をふまえ、疾患固有の栄養・代謝における介入方法や地域の予防啓発事業に関する研究を担当する。</p> <p>(15 方 雪敏) 統計ソフトウェアRなどを用いた、腫瘍学、代謝性疾患などの様々な疾患における臨床データ分析、臨床試験デザイン、バイオインフォマティクス研究を担当する。</p> <p>(16 津野 香奈美) 一般住民、子ども、労働者を対象とした精神保健研究、公衆衛生・疫学分野における量的データを用いた研究（観察研究および介入研究）を担当する。また、労働者におけるうつ病等のメンタルヘルス不調の第一次予防に繋がる組織風土、上司のリーダーシップ形態、ハラスメント対策、職場環境改善の実施・分析を通じた研究や改善策の提案を担当する。</p> <p>(17 渡邊 亮) 医療機関をはじめとしたヘルスケア・プロバイダの適切な配置や、効率的な組織マネジメントの在り方などに関する課題を抽出し、DPC、レセプト、経営情報を含めたデータに基づいた、定量的な分析を主体とした医療経済・医療経営・管理会計的研究について担当する。</p> <p>(18 Thomas Svensson) コホート研究やレジストリーデータを用いた国内のビッグデータを用いた研究や海外との共同研究として、特に精神・心理社会要因、ゲノム情報と心疾患などの疾患罹患率、死亡率などのアウトカムとの関連についての研究を行ってきた経験より、当該分野を担当する。また、発表時のプレゼンテーション（ピッチ）についての事前指導を希望者に対してプレゼンテーションの授業にて行う。</p>	
		<p>(概要) 今までの業務上の経験、コースワークやフィールド実習で得た気づきや学び、そして各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題について、ヘルスイノベーション演習基礎において策定した研究計画を踏まえてデータの取得と分析を進め、その結果について課題研究報告書または修士論文の作成を行う。</p> <p>(1 成松 宏人) (13 中村 翔) 既存の研究論文の吟味から課題抽出を行い、オリジナルなリサーチクエスチョンを導き出し、それを解決しうるフィールドやデータ、サンプリング、分析手法を含めた研究の立案に関する研究を担当する。 また、臨床における課題を抽出し、それを解決しうる臨床試験のプロトコルを作成し、その実施・分析を通じた研究を担当する。</p> <p>(2 竹内 正弘) 既存のデータベースに対し個々の研究課題を立て、R・SASなどの統計パッケージを用いて統計解析を行い、結果の解釈や考察を通じて仮説を立証し課題を解決するための研究を担当する。 また、実例に基づいた経時測定データ（たとえばコホート研究やケースコントロール研究のデータベース）について、臨床統計学的な研究デザインを構築し、診療指針策定や治療戦略立案等に関する統計学的分析のための研究を担当する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヘルスイノベーション演習	<p>(3 中原 慎二) 各人の職域あるいは他の任意のフィールドにおける健康課題を抽出し（ヘルスサービスがフィールドとなる場合にはサービスデリバリーの課題もあり得る）、その解決のために必要なデータ、サンプリング、調査方法、分析の方向性についてフィールド調査計画を立案、分析し政策提案を行う。すでに何らかの政策・施策が実施されている場合にはその評価を行い、効果が低い場合には改善策の提案を行う。 また、グローバルに重要性の高い公衆衛生上の課題に関する疫学研究を立案、データ分析し、考察や政策提案を含めた研究について担当する。</p> <p>(4 吉田 穂波) デジタル情報時代におけるヘルスコミュニケーション理論をふまえ、実践可能なコミュニケーションについて、1つの課題を設定し、既存のエビデンスをもとにさらなるイノベーションの可能性を精査する。 地域社会や、対医療従事者、対患者、対住民、対社会、対企業、対マスメディア等を含めた保健医療分野における伝達対象や伝達効果の差異を踏まえ最も効果的な手法について実証研究の中で仮説検証を行い、分析結果から社会実装の要件について明らかにする。</p> <p>(5 徳野 慎一) 日本の労働衛生の管理体制や制度設計を基にしたストレス・マネジメントやメンタル・ヘルスを含めた産業・労働衛生領域の研究を担当する。 また、産業保健アセスメントツールやマネジメント手法をふまえ、医療領域や企業、自治体や国家、法の視点から科学的知見に基づいたあるべき労働環境の構築に関する研究について担当する。</p> <p>(6 川村 顕) 政府統計や行政記録情報等の既存データを用い、医療サービス市場における需要や供給等の意思決定に関わるリサーチクエスチョンについて、統計的に検証するような研究を担当する。統計ソフトウェアはStataを用いる。</p> <p>(7 西村 淳) 医療・介護を中心とした社会保障財政の現状と方向性を踏まえて、社会保障財政の適正化、改革動向、提供体制との関連等の観点からの課題抽出と整理を行う。 具体的には、医療保険財政、介護保険財政、国と自治体の財政と社会保障、社会保障の財政方式と費用負担等の中から課題を選び、その分析方法や解決方法に関する研究を担当する。</p> <p>(9 昌子 久仁子) 医薬品・医療機器など、医療の改善に資する技術革新やその実用化・市場創出における国内外の制度的・社会的諸課題、イノベーションを創出できるチームや組織の要因を明らかにするため、比較分析や組織分析、事例研究などに基づいたヘルスイノベーション研究を担当する。</p> <p>(10 坂巻 弘之) 薬価ならびに保険医療材料価格についての制度分析や実際に設定された価格に対する医療経済評価からの分析・評価など、薬務政策に関わる研究や、個別医療技術についてシミュレーションモデルを用いた医療経済分析研究を担当する。 また、医薬品・医療機器・再生医療等の医療技術の市場動向、これら医療技術の流通と薬局経営、グローバルでの日本の位置付けとその課題を踏まえたうえで、保健医療政策と産業振興政策の分析を踏まえたヘルスイノベーションに関する研究を担当する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(11 大西 昭郎) 医薬品、医療機器、再生医療、医療ICTなどに代表される健康・医療の分野における技術革新の動向とその実用化に関連する諸課題とそれらへの対応に関して、内外の制度や政策の比較分析などの研究を行う。 また、医薬品、医療機器、並びにヘルスケアのサービスの市場や産業についての内外の動向やその背景についての知見を深めることで、ヘルスイノベーションの実現に求められる施策や政策についての視座やフレームワークの再整理も試みる。</p> <p>(12 島岡 未来子) 医療、保健福祉分野における社会的課題をいかに解決するかに焦点をあてその分析方法や解決方法に資する研究を担当する。 具体的には、医療や保健福祉にかかる現場の課題を、イノベーション、公共経営、協働ガバナンスの問題意識に基づき観察し、課題を抽出し、既存の研究論文のレビューから、理論と現実の間のギャップを抽出する。そのギャップからリサーチクエスチョンを導き出し、定量的、定性的な手法によりクエスチョンへの解を明らかにすることに取り組む。</p> <p>(13 中島 啓) 未病状態や肥満・糖尿病・腎不全などの病態と、栄養・代謝との関連につき課題を設定し、臨床栄養学における分析手法を用いた研究について担当する。 また、栄養素の吸収・代謝や、健康食品・サプリメント・人工甘味料などの知識をふまえ、疾患固有の栄養・代謝における介入方法や地域の予防啓発事業に関する研究を担当する。</p> <p>(15 方 雪敏) 統計ソフトウェアRなどを用いた、腫瘍学、代謝性疾患などの様々な疾患における臨床データ分析、臨床試験デザイン、バイオインフォマティクス研究を担当する。</p> <p>(16 津野 香奈美) 一般住民、子ども、労働者を対象とした精神保健研究、公衆衛生・疫学分野における量的データを用いた研究（観察研究および介入研究）を担当する。また、労働者におけるうつ病等のメンタルヘルス不調の第一次予防に繋がる組織風土、上司のリーダーシップ形態、ハラスメント対策、職場環境改善の実施・分析を通じた研究や改善策の提案を担当する。</p> <p>(17 渡邊 亮) 医療機関をはじめとしたヘルスケア・プロバイダの適切な配置や、効率的な組織マネジメントの在り方などに関する課題を抽出し、DPC、レセプト、経営情報を含めたデータに基づいた、定量的な分析を主体とした医療経済・医療経営・管理会計的研究について担当する。</p> <p>(18 Thomas Svensson) コホート研究やレジストリーデータを用いた国内のビッグデータを用いた研究や海外との共同研究として、特に精神・心理社会要因、ゲノム情報と心疾患などの疾患罹患率、死亡率などのアウトカムとの関連についての研究を行ってきた経験より、当該分野を担当する。また、発表時のプレゼンテーション（ピッチ）についての事前指導を希望者に対してプレゼンテーションの授業にて行う。</p>	

神奈川県立保健福祉大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更理由	
神奈川県立保健福祉大学				神奈川県立保健福祉大学					
保健福祉学部				保健福祉学部					
		2年 次	3年 次		2年 次	3年 次			
看護学科	90	-	8	376	看護学科	90	-	8	376
栄養学科	40	-	4	168	栄養学科	40	-	4	168
社会福祉学科	60	3	-	249	社会福祉学科	60	3	-	249
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科					
理学療法学専攻	20	-	-	80	理学療法学専攻	20	-	-	80
作業療法学専攻	20	-	-	80	作業療法学専攻	20	-	-	80
計	230	3	12	953	計	230	3	12	953
神奈川県立保健福祉大学大学院				神奈川県立保健福祉大学大学院					
保健福祉学研究科				保健福祉学研究科					
保健福祉学専攻				保健福祉学専攻					
博士前期課程(M)	20	-	40	博士前期課程(M)	20	-	40		
博士後期課程(D)	5	-	15	博士後期課程(D)	5	-	15		
計	25		55						
								研究科の設置 (認可申請)	
					<u>ヘルスイノベーション研究科</u>				
					<u>ヘルスイノベーション専攻</u>				
					修士課程(M)	15	-	30	
					計	40		85	